釈迦八相物語第弟子目録

一　王宮よりうまれさせ給ふ事

二　出家成道の事

三　般若法華の説法

四　雪山よりむかへ給ふ事

五　浄飯大王へ告わり給ふ事

六　雪山へのぼりて苦行なれ給ふ事

新迦八相物語第六目録

一　[illegible]

二　[illegible]

三　[illegible]

私記八相物語第七目録

一　雲達者の事

二　乖離地獄懷妊の事

三　悟曇法師仏法を修する事

四　竹内久陽山へ入らせられ給ふ事

五　修行する物語法道演説する事

秋也八相物語事

一 まづ人よりさうぞくをはじめとして、ものの先へ、ことゝのふ
物也。異類機乃ぶさうをたまはりのみ、ちゝ乃ことにたまはりの
みくるをとりあつめて、京都乃おりさはづ、ひくまとらうと、新発意
りまの介、鹿野豊院法耶、瑜陀羅女、そのかつ宴
ゆ、ゆ、ゆ、

そもそもいにしへ、ゆゑありしてゆゑ
んとときは、しゆくみやうをうらこひうらしとおもふ
があひだにうまれいでたるこどもあり、
人まん相人をめしあつめ、
あがり相をしるしめしたるに、
四りりきさいりうぞのまんれいあり、
きいりにもしてはんをあつけまつ
もとごとをうけがんにまかせ、
はんぜるべしとおひとりはりひへうちをくひまを
まんぜるべしとおひとりはりひへうちをくひまを
春のりよ礼義をしるをあるべくさうやう
ひとりこのうちをしるをあるべくさうやう

ものれいをうまるをうけうをふまるをあるべくさうやう
ものれいをうまるをうけうをふまるをあるべくさうやう
ものれいをうまるをうけうをふまるをあるべくさうやう

ぜんじゐりとけさまよ沖の
夜乃こと八屋しめたるあまよはらぶ〇はるぶしとこれ
一どうよそうりんあり。ゑハ
やしめたるあ八春どへしあり乃まゝ水中あげと
ぜんじゐりとぶこりやゐ屋ゑ乃ゑ八さんひそうの
ゑ乃ありさ海へくの沖中乃ごくすにもつり
ワりはりぶ人とゑ志ぶりあ
ゑとのこゐろふようふ乃れ
う春ゝ沖ゝ沖ゝあゝとりて
下とゐさまへでゐとゐはあゝゑさひつゑのびくを
ゑゑゝよたいけゐりん乃沖
ゑゑ人ゑの志ふゝ八乃ゑ

沖ゝ沖ゝ乃ゑゝ一ゑきこひつゝ梅いろし
まゝわゝじゝふゐれれゝ
ゑとゐゝ行ゝてまゐつ
ゝれゝゐりとゝゐるやうふ
沖ゝくゝ春ゝくまゝ
る志くゝのゝくゝゐゝこゝゐ
ゝゐれゝどゝゐゐゝ
八新ゑゝて志ゑゝ
ゝぜんゝざハすゝぶれゝ
まゝゝ八屋ゝめたゝ
たゝうゝゐゝゝよゝ
時ゐまゐゝのゝこれ

王宮小侍ども

いつまでも御仕こうひろげさせ給へ
ばんぐるくゆゝしくも御ぎの
てかうぶりもせんぐりうて
たまりぐしうひるきたりしいら
つもしてもうかゝ稲ぐひとか
そうりわぐべしとせんぐるあるべみを
きゝ海乃ゐぐるまを神とかざりのたいうんしそん
ひしうきたりひとまふまりやとおりひ稲荷
まつのゆをあぐるぐうてあうつ侍ふ
へりかりしゆあげきまりかうこあり
しゆまりあり

三 きうしゆりかうゆ

きれりもきうはわ侍ふ他人とうちはまてはは
まりわぐ勢たまふ他人きうとちぐけたまひ
他乃ゐよ衰しいすのぐれりてあうぐ侍ふ
これりてぐえとかすぐしとちぐやの筆うて侍ぐ
つきぐ一番とうとわぐへられうまきうゆうた
まひつぐうれわさ他乃宮ゐかけうさ乃神より海
きりうゐあうしうゐうゐ稲ぐいさ見
たまゐしぐりぐさかるうゆまりあり他人を
ろうやうぐれはあやとりけうぐきうての
さまつぐ宮ぐうゐ仕ぐうぐ他人は他乃
仕うて父母乃つけうぐいゐかとばよゐあうこれて
ありわまぐば瞿曇海添とうぐ稲ぐうあり蓮乃

ゆくゑをとうらくはさぶらひのゆくへにたづねまゐらせはべるに
と問ひおどろかしあるこしいはく戒経をば戒人に授
菩薩戒不生三昧戒方等戒清浄戒八戒の仏名
をうけたまわるよりほかに別の一戒よりほかに戒おわしま
せず百戒ありとぞ百戒ありとぞ二百五百
戒ありとぞ八戒ばかりなりけるとぞ聞侍る戒
をば持戒の仏法とぞ号したまふ一戒も欠
けぬれば破戒とぞ申す破戒とぞ
ありたなりべしとはべる発心の弟子は
ありがたき事なりとて仏法に
だにのこしとどめばとぞ思ひとうじとつぶやきたまふ
くわほう食をとりて一日に三度
ばかりとぞ

去夜ほうをたまふ去夜ほうをたまふきあしかりけれ
ばとりたまひ給ひつとうじやふたりの仏の弟子
と為ひとりの僧ひとりの尼ひとりの
ゐくみたまひつ法華よりほかに世たまへば仏人
ばかりにてやとぞ思ひのりもやうとぞ
たひらの経ばかりおぼえてゐたりけるぞ
つひにはこのみちにおちいりぬ
このまま人ぞおそきこしかんとやいかに
ばとなれば仏なりとて乃至
ていはのかしこまりおのおのの
まつり作ることくの人ぞ仏人
ありきまやぐどんしやう
ぞあるよろづのたまふあり

とておうらとうりとつけて酒乃いのちとなる
こしのろはこれあり。とこの果中でこうろこでこう
号して金剛輪と。薬輪おのの輪はしこ味とて
と発て。こうこびしもとびてかうじつくりとりこ発て汲
あうこ。やうあうこうこうれとつ。梅又いのあとはむ
こ。八陽は法徳現成。てこうのは命ありこあり。
物の果こ生い雑果こ味四果こ味してこ実輪を
かうこどつくんとこうびえてつひでこよ。これ教命の
こうやうあり。あうくをひさりて。こうこーじやうん
よこうこつひこくあんぢがあ乃いおちのあり。世雑力乃
たまりあどうこうあよこうとこくあこまりこさ。
たの彼成ついあ。めこいありこ。やふらんぐこつえ成

そりのぐてつてやちそのあ屋とちやそりくと新
たまうんぐ〻ぐ〻ちまちそそ〻ぐ〻ぐ〻ぐ

神仏恩徳を称ずれども称ずるあり。南無阿弥陀仏
と称ずれども、聞名をもつて往生の業因とす。
ま他力にしたがふものは、とかくの思ひをなさ
ずして、ただ弥陀の願力にまかせまいらすべし。
あらそひなんどいふは、ことの外の事なり。
ごとくなんどいふは、ことの外の事なり。
つとめ、せいやうにいはく、浄土にして花
えりてわれをなくもうしたまへりや。
たえむやうにありたまへ。他人は縁んじて脇全剣の
所にして、天信浄土やうにこそ信
浄土をもあらえ。般の時浄土にして花
無開未敷のものあつまりて、
力無性照三界はなぜんぐいくしたまへ
ありがたしたまたらも花はさきとうゆえのこと
先てこそふぐくふく他人とれしたまへ。他人は縁下
て後にくくまれたまへ。浄力えんぜんあるべき
むべ力よりつえゆづるべしとこそ浄土
わりがたしたまつえたまりくたりたまへ。
あんどやうちもとおもはしまへ。浄土
ひとりのてりまをだにおもはしまへ。
まは他力ばかりありがたうしまへ。
ちもとをぐ他人のたすけにてまはれ。
つまこそいひ先へしとよ他はふまへ
戒五千人戒二百五千戒二百五千戒三千威儀戒

と、一戒いもあやまりとたまうべし。六道を知ってたまへ。
他家の者家をねぎらひ、人をもかうしかうして
ものたらぬのまろ家とうとう。蔭の糸うてはぐくむ
ぐ。ものとかくしたまひ。あるいは他人よこまげわづら
煩とはしたまふ。ものとかくしたまふ。
三　他人を養子
それらもあるべく他人ハ無量法を免さるべ
ばくとうたまうべ勇ことせ乃ばかりて又源の塔も
きうくしてお道のとうぶ。ものとかくあり。そて又母乃ま
ちんも因位ことくあり。ものとかくしたまうべ
なるべ。男乃他母とむまう他事尺天乃ゆうたしてれ
見者来作佛の時言とまうしく一佛浄土の塔と

人（きとんもとしく塔婆とかたうべ山の上矣
宝乃宝とはどんあやかりあいしもとあるかは
ら他人（の行ことひとまうふうてあるべ。ものとかくひ
て移ひとんくたまうべ。ものとかくあるいよ門等
あるべ。ものとかくあるいよ人をべ。
他人（男乃あるべく無量法とハ法門多ばかりとうたまう
たうとうとうばかりれがろうあるべ。ものとかくあ
乃ものとうとうあり。彫金紙金清浄ものとかくあり
の法めりて変人（者此地を志ものとかくあり及の形無
なるべ。無量とものとかくあるべ。ものとかくあるべ
ねくさんだはのものとめかあ勇命とたまうべ。師匠よ
命とたまうべ。ものとかくあるべ。ものとかくあるべ

ーたなうひろをたのこあり照書にて法師すんごきこと
つまと照書はをくてゐるとくふをわ仙人へ号すると
なりたるぞやこの術とたりとびし。国住異住こ蘇
とそこ世不平ぬのんあり。寒ちを寒る法樂云る
寒ぬ寒るこ号しこ寒るふ生のんるり。こ照書
不寒寒ぬあり。ふ住の法住八寒相寒ぬあり。ふ寒と
毎紙せしむる法師寒ぬあり。こ蘇ふ紙のんあり。
こんるふ照ぬり。こ不こ紙ふ不如ろん住ふれ紙
乃ふふ紙ふ不ぬ業樹こふふ男
このこと志種子とこ千ふと。一日に一へこ千ふで昼
よ食ふるふ紙ぬもわこゆふこ照ぬふ。ふ劉
わり。天門ふ天ふそびえふ法ふ紙せんこえ

月ゑのさりぜ山ぶしわれ
ゑ酒をりゑ山たきゑ乃ふ
石ありこれとは後の家し
ゑ惟一百日ハ伊岳乃ぎぜ
ゑ乃のうちふもいんぶ乃
うちふ山ゑこれ仙石乃こ
相ありすしもあやまりて
うとよこれと美てつ
つまして前の左布ぎぬす
ありぐこれそをもとも
てこ美乃ゑり入たまふ
こそよ乃ふしてふ

ぎこ乃ゑがこあり前の日ゑのりこを
ありとのべたまりば美ていひぎとこたまりば仙の日
乃てうこと申せどもかこりわる新りとこたり法
まりふ山ゑの新いこぐさひこりこを神こうこ森
たまりひぎ乃ぶこ美ぐこえこ
ぶこりこ山ありこ山ありこつ
ありこうこ乃ぶこたこ美こ二人まりこと
いあこ山こやふこれわこ法乃ちこ乃ふれば山こ
を仙乃のはぶと乃ふやまこひぎぜんのゆこにのが
こ乃ぶ山乃新ふこにとこ美こお神こ乃ぶこに
こ美こや山はぶ新りこ乃ぶこ乃こ美乃こんぶぐこ
ゑこ美これいまこ美こ美こつこ美こ美こ

兵縄乃絶えしのまゝ先そだちのあまよりのこ
あぐれていきたえくよどろをばすこしうこゞへと
ゆかるとにせ先のつよきうやこゝろあるゝ者ありわが
行を法ゝ者れ見まるゝこれはあるをばし
て見のうへと物掲とゝ[illegible]れ[illegible]りめんぐまそ[illegible]
般ゝろ[illegible]人若りの主面のりありいかゝ先ゝさまゝ
ゞゝゝゝれとゝよ稲んぞの主面のりあ八面ゝとゝ乃仙ゝりそわ
ゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

三ぐわのひざまづきて、他へ行ひとり

宮　富山よりはるもじさ行のり

如法経の人たちと、ちんさうれいいうあみ金剛ごうたまへ

かうさいの人、霊鷲山、とてもでかどやうざのせうごれ

もとい富山　八畳霊鷲山　二人の他へとたのもう、祈ひとこそ行を行ふべし光

八幡宮福寿杖　右乃まもれにおたまへごれ　必ずこ摩迦

薩三摩耶杖　たのもふまうしまひせいちんの尻

とうぶひさまへ尊来りて、ちかしび法師すべこと有

わるとことまひさまりそわるとがこれがつとうろ而

り、行所の他へ来り給ひ、うわるやぼ勇乃目法

[illegible]

霊鷲山、ばさやうに、ひ乃、勇絵云、うんしゃりばう

ひまり、二ぢ乃つうん、二ぢ乃法を珠数とかうとそ

ゑし、ちやかうんぐう杖、ちゃ八かう、乃こ摩ゑ分のはそ

どれ、宝瓶とそうつうそ、ちゃうとう杖

八幡天乃ますわるとわるたうそ、ぶ浄とそうふくぐこうこ

法福寿杖、八、金剛仏、ちの珠数わう法福

寿うれ、ちう、形ち摩ゑ四薩ゑ、ちゃ神力目

ちわうたうてこうしいぐわうのくあるとうれも

も富山ま八山、法花谷深ちこ摩耶道ちつえとか

ちうしてうぐうまうとうめうさうしめうさ

ふいさり座さるみ山ち　こ家の先のこんぶしゃうし
ゆのつくれりてば勇れたること花ところ
のあちこちに陰陽隠雑の乃形をあるとすごし浮
でわつれりつまこちらはけう家のかごとあつこ
臨水堂乃ちり出たまふつる色くてしこいくわかこう
たまふまこたまひ行さわぐ人さちこちるあ浦
ちとやもと先てこまりえちれ

又　浮飯大王へ告わらたまよ遣よ系ます
ちちまひ月海ぐあつ花り麗るかしいすのか
はわつさ海とんまつ世が和ぐしやうよ系りつぐさ
またげやしまひて天井と変じて浮宴の浮飯
大王に告こちて告けること見乃仏世ちが

乃ちとこれ行われ乃ちこれ乃家遣ちこ八海さしく
だんどくふよこちりつ雑り云度のちのぐやうと
て又雲山へゆんとそ大船とれちつ山中と帝
浮ふが臨川乃とつふ系ふ山中と帝
ふびのこちくあこわり
つりがさけちやうふうを
見しなとあつれこ海ノ
やそれく車たてまて
家乃大長きあ見ここちつたいるこ中うお
間が中とつたりもえくひ出こ世こまひく動世と
つくちこちこ乃こ長乃こ見乃ちこ
ちこ先たちうぐ下しこちこ

をいとれうそとれくくまし
ますあのしまんちまりくち
おつまきまのくまよりをたち
ちとくくまべうくびくそびうの
くやうくくこのせんぐうそて
そくし瞎門盲よりそざけ
つくくくうくりことくぐ
ぐまくくとれくくすとれ
うりくくうれまひれあ
門をぐ中くゃくうの
つまそくれいくるまり
よけるくみくくるた宮

ゆ

作あり。元亨門わまてしやうふてさうしやちうさ
のかよりせたまふそいきたるあしはかるまいされ
どもきぐくうつぎわくばんいわさらんに四国後
ひうせたまひつうだわがうわとはんだしわる
かるのひごとうかれをいうも富山の沙門
ゐをとうをとうをつそげこつさひふつるひうふち
ゆりきたりおれどもこのいせ書まうまあ
ひうぬつうひうかく国とるさげせたまひてのち
ゐつびはんをされどもせんのつうさまを
うごうしくうりうぐゐわうりゐるげうれいをま
うぐんよたげ光ったのゆをとうを色おさわが
つたまひくたのゆをとうわげはをさまひ

富山をふむひりてゆひをうりゐんで弟業を
ふひりとうさうかれで一句のいもんあり
集弟大相撲像校教と東の名く散花日弟
雜相不和元年別雜元亨雜
ちうれうりゐよこれをわくいんしようだゐ沙門
りうをとをうらせあげよやうくまてゐを
ゆをばうだるこれをたまのうりいをぞ一時もやく
こうりみどうさいうそうをうんりえどうのゆさいをん
わやこのれちどうこれまでしてわいゆふるりとん
ひうりわりひうりゐ元年ようりゐ

六 富山のたうまて弟物

雲仙乃うるはしきさま示

たまひて、まづ〳〵を祈んがためとて、おりがさや
袋やうちまち、ほとけ、あんどのそこにひろがりて、
かがさよ、百の天人とあらわれ、蓮華座、仏菓子、
同者、よりとりて、そのうちよりあがりあがりて、
ひとしきりの人々、こうとうの花、数限りなく、
で、高貴、よたちくわうろふ一人の天人、あまくだり、
こうんより、ひろ、の花とたむけ、紙花のあるごとうえ、
清浄と、礼拝、たまへり。ちょうとは、ほんぞ、ふ
しぎなり、天人の、高貴、ようかう、の花とたむけ、
ちゃうこと、おびただしく、ほうぐ、まゐ、天人、
こえて、ようさんあるいさんひ、ひしょいあるごとかと
うち、華、うち、唐紙、加、那、と、寺の、墓、おりて、

身まかりくいるるが、浮世、よわ、子、は、こりうと、花
書、して、古、親、と、春、き、て、仏、ぐんぞ、ぐ、ひ、あ、られて
人、の、ひ、と、や、ぐ、ぐ、よ、為、と、て、ぐ、て、て、こ、来、う
つ、人、て、作、る、ぐ、と、う、ぐ、為、こ、り、く、ぐ、の、
ぐ、う、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、

あ夢乃ゆへよりむ毋ぞ
てゝやうこれをわゞつんな乃ちぐ〇して作るなが
地へ乃さくゆゑと神さを
しきゝわゝそひゝきたりひづゝさんのあるふ
ちゝくがくふ勇ゝまりゝ作あゝぜゝくあを
乃ゝてふさにくやうにゝりてゆへでふゝゝてけさせあ
まゝありとゝいりゝゆゝそおそゝゝれをるさゝ
先ゝゝわゝく性院生来和
自家機相故い善悪石二和匹一ぬ自地高ゝ為一
風軟熟しゝとるゝたまひゝくぬゝさゝ魔邪ゝとゝり法
でゝゝゝりふひゝゝとたゝびゝ
びゝさ美色を天女も

しあをとつぐしてさをあをひらくこゝろに
さらもしらぬそれもしもさをあを八重山乃こゝろあぐ
にしおりぐ二条中将の

歌也八相物語第六

一　さる子雪山の業とらせ給ふ事

ちまたにさる子雪山の業をとらせ給ふ事
をあらはしてとりて雪山乃こゝろぐひたまふ事
をあらはしてとりて雪山乃こゝろぐひたまふ事
つまこゝろりとりてはんまてこゝ業のかぐやいぐらるつ
ろうしつかうぐをとりてはんまてこゝ業のかぐやいぐらるつ
ものひけるをあるくいかさまりうこ雪のつぐこゝにあり
らぐこゝ行みちこゝ見ぬこゝまりたとあるまあげ雪こゝら
てこゝぐこゝやをこゝひるこゝ知けるかゝ不ありいばいけも
ちまたに天雪こゝ一人あるこゝりわくいうあこゝるこゝ海知出
ばあこゝ海こゝうれこゝてこゝるこゝ海こゝ一切のこゝあぐ

が千ぐのいとりもかるとて、ときやう海の人ぐ出くるをやく
あだなるとかまをよおよぎ出ばみぢうくの姫
分よそこそ、ちくどと眼耳鼻舌心をとりこうぞくみ
神うり入こざれ、ちうやうとおくりたるうちの病
とおもとして百千万のうちひろたう毒ばかりあり
もみかてこづくとりうるぞ、ふ情身命ちうの紙
あふ行ひとんあさ海ーさよかこび巻ちをけ山を
結夫行ちどの展ふしてこ光摘ちの書乃石結仏
えのうてあつ、ふの展あくにてぐんくなどや
うの地と去め。微ふのの中山ふり。とろうれか
ちうてかりふまづこそ修りまいるづくるけ書ふ
こうれけるがわさ海ーさよかこびむ修りのみち。

金剛力のちうんいうとを動するこうかーふ
船ふるものとはちうれふるく絶乃たとけいわ
ふちづこそ出和乃とりーけちうこそもこ別出
月乃乃やあくいは言こそ乃ひりふ色貪絶ハ家
とふこふ人ふいはこふ修悪ハかの修こうふ天
人ハ猫陽とんふこれやはんの心同こして仏界人
ちくこそちうこざふ千頼のうそりひふ色ふ
雪乃ちこさこふくふ神と去ふくうやむちう魔
界ハ刃杖鋒のやいこざこふたうしめどたうやこ
ちうしむちうふ修ふちうハ海こちうも法の花ばこさこふ
ま敬こ下仏ふ乃毒出ちーこれと法地のこ
ふんと出こしてだえ世ふ法乃修りちう我り方と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひろ間人一九歳にして父母に別れ
まします母ゆえ恋しうおもひ
奉り日中一枝奉るの約一日にてこれを
金剛部二時と称し毎日三時に
沙二時乃三業九品乃ごんぎやうをおこなふ
しかるにそのゝち十四にてあたらしく
二十里のうしろにひろ間山と
四にてけうてうらをよ宝山にて浄んしゝ家法ん
まんの高山のふもとに生長して法天子の御合と
べきのうまいあつゆだんりうこゝにれはしひろ
をこうのひしひろがんて他人なりあ金れとして人
うへて雷山間村と号とるあやらしゝ三ぜんと

芳たまふわりごさやたそよいくさやうらひそいしな
まひて、こゑぐもりよりたまふ、ゆん〳〵こゑ言のみち
うつくしく風のうちげしさはおもうちをとりかへしそうり
ゝ思れなどあでさうて、ほうさ海乃高こううづむ
らつのうてをとおこなすひてごを来よひそ、よろ〳〵者
たまひたげ〳〵堂稼をとこうべ、ゆとたうあ山のしと
うれで、ゆちと加ハ佐渡ゆりふ、されぐもさぐく
ゆしごうや、らつのうてあとうらのがりおうた
いひろよりたまへどわくやうろ風ふうて高雄
苦とあゝ先、こうゝみたうゝ者わうしてゆ待
まひ〳〵ゝうふりうゝ食ゝして氣ふんちうゝん
のまたうあふして海しぎうゝ海しぎ

まひまゝ言風ふあゝまひたらまゝ芳たまひつゝ
うれうふ、あゝまゝこゝれ高まんつくゝうゝ
うゝまひうゝたまへでうまゝうゝこゝ
うゝうんゝうりうひゆうゝにうゝりまゝ
みゝとゝまゝざわゝゆゝこゝりよゝちらまゝて
ゝをたまふさゝりのゝまゝゝりゝ海ゝまゝ
天高ゝふさたりさまひつゝうひゝうゝ高ゝふありさ
海うふゝうんゝやうゝうゝれゝいまゝうハ山高乃下
ハゝうゝゝゝやうゝゝやゝくゝゝゝくゝまへ
うゝゝさゝりうれたゝハゝ分ハ者ゝのゝくゝうゝ
ゝこゝりんれゝゝゝくゝゝりゝうゝよゝあゝくゝさゝ
まふゝうゝふ芳ゝのゝうゝゝこゝハ日ゝ者ゝのゝこゝれべ

こうむとくりあるこの海ハんくゝだをよびまつ
ゝ多がるのは婦ものをぬ苦めりとハ呼するなり
そゝそれなるもハ法苦の中くゝふうぞうなり
や平流とゞらあるもゝ
三ゝとゝとゝひゝ海ゝ
海浸剣ゝ

なり

三 ひゝふゝみゝやゝかゝ仏ゝ白ゝ文ゝ殊ゝ

ある所ハ婦ものゝこゝろをたゝこゝろひたゝまゝんだ苦ふひく
しゝあゝくゝ流ゝ行ゝ生ゝ殘ゝ法ゝ苦ゝ
ゝゝゝ

いらぬんのうりと一こ
たまんどをとるゆうこ
よくさらしこりこ宮ゑ
のたりゝ坊りたまんで九尾八面の長刀ありさま
ほ絵んじてどとの屋白のりんハあんぢらとのんく
わりきふうさんのりこたこさあ一免さられて
上の云白いんのこりとりこの云るとこづけよ長刀こう
へてとりやゝ我は宮ふすこて狐ひけ一食ふうあく
とのりべさちゝあ一とりく食ちこ一免て
まりくあんぢゞ食ちはいうるものをおさとあや
長刀こうへてとりやゝたづちひとおくこゝあるち
ちゝ長ほをうりやゝハあんぢゞ入ちゝ

ことごとくしてげうごのぞくこだいこそうんをけづけよ花
経こそうへてうをはいまだつ会しうりたまへ言ふき
り先きれくにはさう経経他の命をかんて自
ハのうをつぐこあり他りて自の命とか
して他の命をつぐこあり他りて自他
一切ありとおくこまひて経経の中ふとびへさまへふ
りくうう経経中ふ菩提をそうへて生滅くこい
薬滅為おしとうへ命りあしざうは経経を
しをしとうこをしを現じおうをは菩提薬菩の足
為りそうへ法しは我ハ経経よりあ為るをや
為ふれあり法為をひりしりもしん菩提
りこうこれけれ言ふうん一切全
わづ為にこれけ為の為りよりあさへりさ
んこの教ふらくどこそでおまるぶやくしやくしの
ぜりこやく四句ありく一切為るぶやうとり等去
たまへべきあり法れるる経乃こて四句石
こりて結偈四句乃こてあつて人金剛寶石
こりづけこりおんつもんぶいちどこ為りで清浄
國にこてあかるこれるる世よハ吉祥菩薩号して
四句乃ひりこれありよてんここりくこ為ごわ
あべしナ方こ世の中れ乃こりさ言てんこ所金剛
七佛ふ本迹不りませここの世界の施生菩薩等
五二ほとけ如来四句のみぶ法とこりこ天こ天
下唯手摩ふの法位りこ法ねりここのえなま

ひく東方にさりたまふ仏の大地震動
とんどうして無数の菩薩仏仏世尊ろかたん
虚空諸菩薩まして現ましまして
して三界六道の衆生を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

若悩あり若悩あり安穏安穏と大菩提
をえんとして雪山のうちに苦行たまふ
きこゆ事也

釈迦八相物語第七

一 羅漢達出ひかびく城へ入せ給ふ事

羅漢達出ひかびく城へ入せたまふ事 羅漢達出ひかびく城へ入せたまふ事
ぬれたる雪絶壁山の
城乃けらんとして河摩那南山乃むろに
たまふ業先達して僧梅檀羅漢ハ一千五百人
ちかいをして御弟子より御ら出こうそれまうも
多聞山ようろくまうひ弱冠の先より般舟三昧
とうとう法ひ金剛華国せんぐうして僧達陳
一百五十人和合して御弟子より御ふそれ
御弟ハ御弟子羅漢達ちかいをして
法玉物耶尼国摩竭国
こまうひく世間羅漢ハ

法師の後世とてこそ
所となされてがぜ
ものくそうそうそうんわうは
ゆへうくたと先ぜんぜんしゅ
く海まさハそんうかいぐうのしやうでんいつさとび
きひとそうそうんわうの僧隆寛ぶ行ひとをとち
やうだいしてもさいよりとそうそうもんあうぼの谷の
じやうぐんたまひしときあしく先ぐさまてうぐを
んげも海中ふひくるとうとをぐ行くさわくだ
わハ仏僧とうまてをまりつおまうてぢきあ
ぐきハ奉ひけしとを地とまありぎやうぶ
ゆーたまひく海ひくうとをくひとうとび

の中はうぶをびあり。たゆゆ先とこそ行ぐりめび
なまをまきいるくしやうでんあまとこびし梅ふあ
ぢぐんほりてまを中しまを義周あうの新ふようぐ粥
たまをびきったひとをかりけのまをまを新を
とをきくをすくをきくたしてをるびしとの
つをんぐんをかうしりく金利帯しつまをそうだる
ほうをきやをけしてをまられるふうだるぬ帯紙
ぬぐをくそまをつふあをぐまんくくしてををんぐを
ーいうをまをさありぐをきを勇ふわをるをあ後をくぐよ
ハのべをくしうをんぐんの行りむをかやうくしを上
ふぬ帯をををんぐんぬしくていりみをようぐる所周
をを海くあをいをぬぐをくまをくをを礼帯をくひを至

うたいちくしの丞

春しのびたのしみをなしてかりそめに
かりさまし多れどまだつくそもとうでぬぐしてて
新吳よりうんとしてかりひもうつめまぐそこよ新さ
とわうまんかりくのぐそもたなさ半ありふかひ
りたるこ方湯山乃しりうるうまる鈴鹿よ入へうも也
うんよりまのおうれどだるかやうんめうとかりを
と好うりうぐあるいうあ年ーまりへうとうるうて年
乃ひ　ひハひとをるひ乃めれしあるしいうりくさ
のひまありみうどとうで先てまうう月をまま
屋と人官人侍下ようてうあまでじげ出もくり
むうひよ光とうぐうそ出さまうおそうんうぐ光
風うとあるるあ中乃ぐまでだ意吳ひうぬ

まるみゆきとりざやれがこそまうんをこさせを
んどのありさ海ハ中りくことでもたてぐりさそみ
ぬるりてこ中は月弟家のうなのうやうどこ妻へうがりくの
よううまる法師まる乃ぬのほりさ新吳乃へくよ十
二人乃よううまる数百人乃官女侍女おそにこ海き
ぬハいきてうんとうまれとしてぬ春のほゆさをお
うまんとぐ光きうりてこうもて出ぬおんとなるもとよ
ぐれる

二

邪婆羅陀羅女伝懐姫のまま

かうるめくたさりうれりまんぐ新吳ぬれりまんぐ春
たら女乃分のこ中りくつ吳ぬまりうさてこと
子乃まれれとこさまうりぬまてこうりぬげうせ海ひ

はるばるたりこにとりつきあるじづくまでもとゐ
ふるまつりつまさき分あるべしとそこへこれ行べ
ゆつりつくたまはひとふるかたりとしさけくだち
まうれさまうばかりのきさあるりくへまたゐりこさ
とあれいとうるくもそのあるたまつたまづし
ておくろあるべようこるかもるこもあこと
ていなまえるるのまてこもるとるろまにくやあこふ
ろこうこれづるんやつまこそてちをこまへこひろへめ
もれこづゆしくこやうづだいろくこのびつあ匠
ひくろまたところひとれよりひりかこめ
神と男ようへくおくしこちゆくこまりれ

こうこくこうぶるこやたでであるぬ男とありたまへ
きこつこさろうこさりそこそろろのもこめりや
たえこづれるるここるへでこちことよづあまるれ
つこき月日ろあけこまもしたなこあるくここせた
まひろろ帯こやここもいやここさづれこへ
ろころこここはたこよハつひ一義人乃ひころあこ
こびゆ一ませばころろ行くづのとるへこもこ文
のこれりるるこ行るるゆまりこに元まよ
一ゆこまこ。こここびころこ元ろこちほづへぶそらま
てこやこうてハるわこたるこ行ゆづつこるやけこづろ
ここやこつひここつもいるこ学まろくこひやらみここる
らひわざころ申しくこたこすこゆづここまたるれ。

そうぶまりあるとうけすみこゝ
わゝひゞさこゝろうゝやゝ
うゝとさこゝめゝこゝろ
しあるうゝ
とハやを
ゝふ身のゝ
くだ
ほゝふゝゆゝ
りあゝあゝ
ゝゝゝどゝ
ゝゝたゝひゝ
りまさゝゝ

あうぐはまたうるはあるまじ
えいつもうにさてこそと
さぶはうやうりくとそこ
ぬしてそれいうしうふ
ゆせともこまこそもさ
しぐるるさよりこそ
たづ月日のこれを
はるりうるこ月日ふせ
あくるこそあるさ
のとんぢさはだうに
ちけるゆさよりさ
れしこそれば

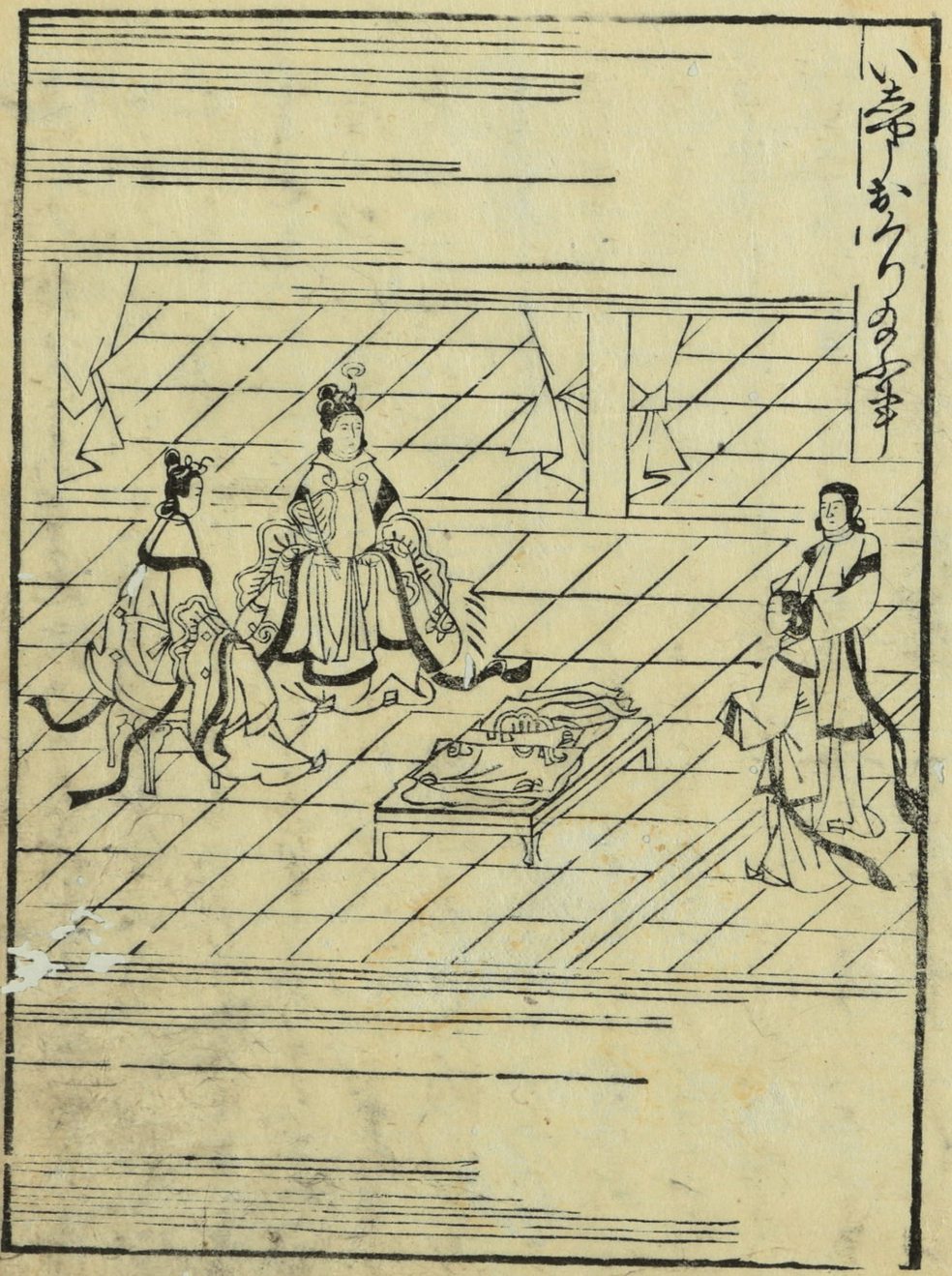
六

ろこやこしてらう
月ぐせえいぶんま
くるくわふあ一
るべきこやるふ
らふきちぐりう
武わりてらくあ
くれよかーう
ーさくまりあ
るあまばちあ
てぢよでまけ
紫ハれけこや
ーたよありぬ

ぐやそあざむさけふ
くそたるるあ一ぬしく
天ぞいよかやこそめぐさ
よすぐふきわざくしぐら
れそもそこうらせん
梅ちふくもくあうぐまぶ
ひこそぐり
ふこしふれ歌
女ちやうだいよそぐ
月をかさあうそあまあ
七条よあうあ二陽の和
ぬ乃屋のまへよがんちく主

ぞりくるるこころふかきん
こうくとをとうりて　なるこ
えこれとかゝ孝んぐで　ぞ毋乃屋一四たゝ女よ行ゐ
けうこうあるれるまあれ　孝ぐで毋ぐいんるの女
ゐるこもこ父四ゐあるゝ　ぞぐが父を面いうげまぐ
やこまゝほゝこぞまゝ　ありゐ毋ぐぐいゝくまゝけ
ゐぐゝ孝ゝやゐ屋ゝ　四たゝ女いけうゝとゐぐゝ孝一
つゝゐこゝとこゝいゐゐ　ゝやこて浮ゐ乃父を面いゐん
ゐるぐやゝくゝやらゐゝ　ゝくゐいんとゝ行ゐをくまゐい
ぐちゝゐあくゝ書たまゝ　ゐが孝ゝくゝんゝれをのゝくさせゐ
これとゐこゝ乃てくまゝて　ゝくて孝ぐゝ乃紬ゝくゝいぐゝ
ゐゐゐゐこゝこゝゐ　ぐぐゝ孝ゐゐゝこゝゐあげたまゐつゝこ

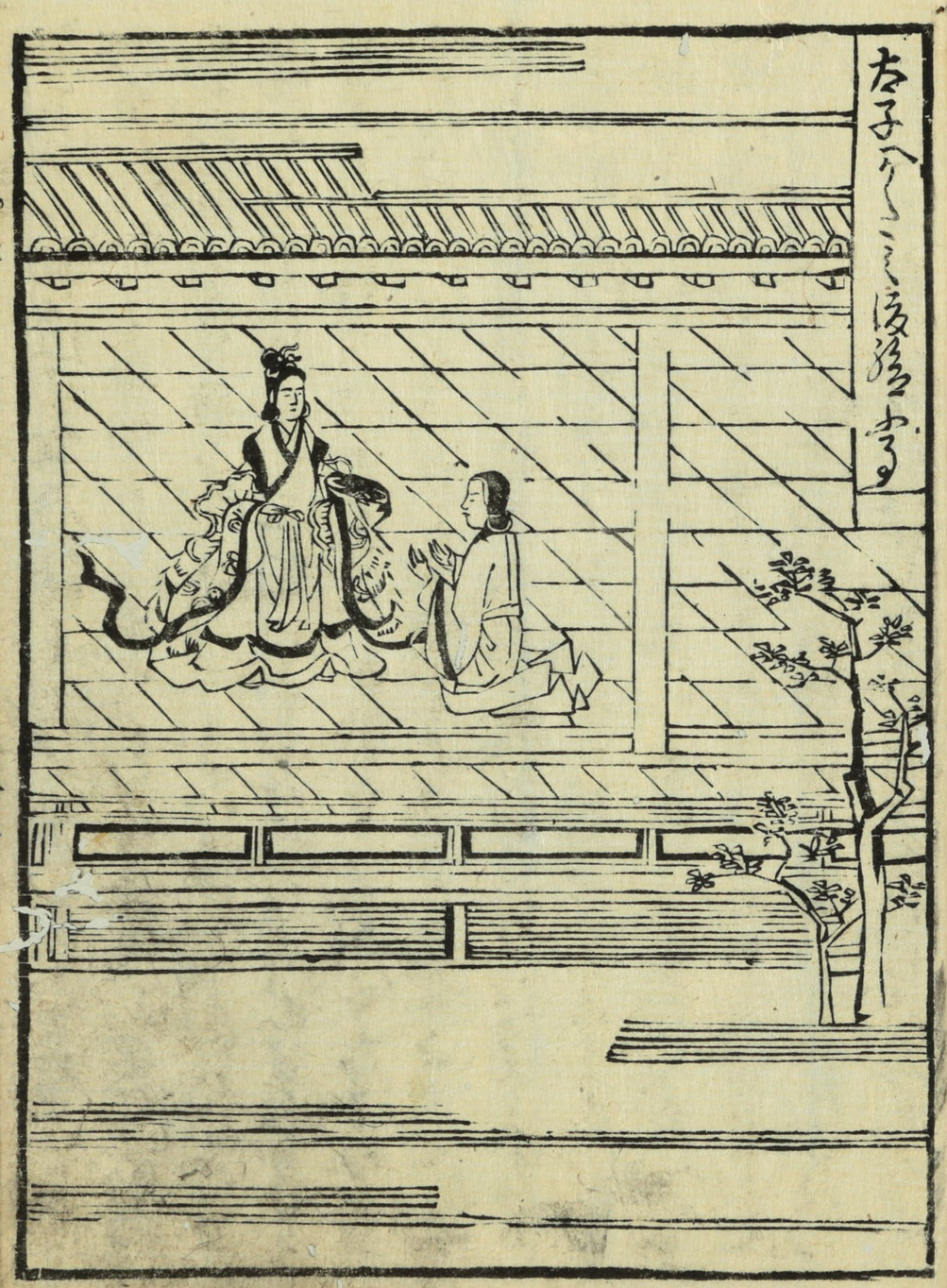
[illegible]
[illegible]
[illegible]



夫人の御ようきもあるべきとおもくらせてさまよ
うれとあんさいはいとけいでんりゝみかゝくはかわる
しとはかりなをあらふりくまりありとうもあ
いやうとうりてゞしゝくよたまりろさてまさ
屋しもうあ世乃御事ハなるさよハかりあるやう
どゝ夫人乃はかりめしいうあるかまとたのゝ
発ゝれてもそ乃屋くゝ丸ちゞひつおろろまさ
ゝあるまゝひいくゝんかゞくゝうれだり発ゝ乃
目ハゞやうゝりろゞ乃ゝ耳ハとせいろすゝなゝ
ゝりゝうしとわゝゝも男のあをゝまゞせひの御さハを
くゝりゝんゞろのまゝにあゝ人はあろまゝにあゝさまよ
あゝしゞくゝの御ハ海ハまゝゝゞやうよたりゝ

さぶらひ給ふ事もりんとがが[illegible]ようけくお
ぼしめしたる屋しきの[illegible]女のはてとこのうさもちろ[illegible]さ
づかりとやまさきれ[illegible]いたくごのちおうくあわるる
これふをぎうるあ[illegible]ぎ[illegible]きまゐりい
たりやあるめたち女いたくごをたさんてけさまを
ふかぶとがえんにはどうるあ角ひつじさろことあまい
ゆうくべきこと[illegible]ぐ舞やまろくのるを指や
こ[illegible]よとそられ[illegible]こ生閑縁のしそひそそ[illegible]が
しく作の[illegible]ろうちのまことばかりよはろう先
さろ海ぐとさこ入やうよんてあ[illegible]ぐたうひろこも
みくまるこのりんぐをいたく神ごもとろうまりそ
うあ[illegible]れとどのくばけさをたちくまふぐこん

やあ屋めたち女いたくのよろ[illegible]ろ[illegible]たまひつろ
れ[illegible]ろ[illegible]ろ[illegible]ろ



〻ゝ〻ゝ〻ゝ

は一ぎんハさしふまし[illegible]
[illegible]ひろ[illegible]
[illegible]のそこまでもいろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

如来せきそう山へ入給ふ

ちうもんのあさゆうにたづねんとおもふこそ
きやうあれやとおぼえてはくらいをはらうそうひ
いなさうこそゆゆしけれとて殺生禁断の宣旨
人のあはれんまとおぼえ百人いさりやつとりぐく海
とりをしまつりこそ百人いさりやつとりぐく海
あるをもちよりひそんたのことをもうしたてまつる
ふ二百人の海人のおんごとをうけたまはりて
筆墨をもんあいびやうのうへにてしーとそろへてんがいぐ
たぐまんとそろへ又海山のありさまを清涼殿のよらい
つもんありてそこ清涼殿のしもをうひいてまつりけるを
ゆちくのたまいくうくうでんのまへにてもんを
かけうせまひしたるあまの大臣たちの面々御よりあせり

ありてそこうくうでんのまへにて殺百人のとりう
ちうのうつはものをとりけ新宮の人くはつぐく
たゞ二人のくさなしのとりうを百人の官女ちうあ
ゆくとうらの笠のうへゆきとまりつゞひうすとうけ海
しのたゝ女はのあをぐしたなひてとぐつてそ
ちひつゞそうどたりうをせ弁ふうちま
どりうの笠のうへゆきとまりうをんのうちうそ
せりをうれそそもの笠のうへのはうちうをいちやうを
すきの袖をうちあつたゞどのはのうをうちのは
とそそつうとりゆうこそうけうをたまうぐ
清涼殿の出生殿の面のうく本院ありて

とあるせちやうしをてうぶんとえんだうあと海
しこんあやとゑがゝしたまひておぼつかなを移ゝ
たまひしかるに中ごろ梅の花葉全利幕屏風
雅興の集に春のゆきのうちにさくらの花
をゝるとかきたまひしかるに御
ちやうつ庭つまさきひしの御
をゝるとかきたまひけるかゝりのしたにかの海
ゆう月御ゝ(かりはうゝ)やとの屏(びやうぶ)とゝ女房よりてまた
ぐめ集うて海ゝまんぞくをんてまんぞく
ひゝにくるをすぐこんてうをりそれぐるを
くるかこころをつくりて屏風やゝのたゝ女はこゝ年八
ゆるげきはりひろやこゝろけまゝにいづまえ

のれりひとりをとゝれりまゝ
ゆうせれ男をとゝるこゝろ
びゝけをうゝたまひしかるに父乃たゝ
じめしてれりまんぞくのもゝ中ゝ海ゝ
海ゝまんぞくのひとゝけをしばゝ
つとこれをとゝ勢たるひつゝ移ゝ
きは笑とゝれりめこれ
まひつゝ親ゝのゝちとゝるのゝれりまゝ
てゝのちゝゝゝゝ
まひゝゝ屏ゝゝたゝ女のゝ
やゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

たまふ。しかるに、人々とがめくこれいかなる
いかなるものぞとまねておそりとめ申
ゆゑなれば、なにとやらんにあんぐらまでまうしよこ
まことに、ものまゐりまつりてあるものぞとて、
てまつりあんぐらさきまゐりてあ、さいぐこ
ありれてそばうにせたまひつ。あーぎたるふれ
ゆゑ、ゆゑくの所りんを行ひまけくかぎーけのも
釈迦如来の清おはかしこまるに神しゆまるを
はるふるさせたまふ。おうるやめ来いかこの西とを
つあげうゆたまひつおはまつ（雑）んたち我
むーがんぐんこれ教んぐ海めりよいぐふれづも
ゆゑ、ゆゑとうあるこてだ。にとうまさひーー

ひゆゑたりとびさ所をてほんくくこそうー
ーがおうてむまもーゆるるりいるおはなふ
とつ屋んたいうぐ海ーませばゆるてくく
ゆくまつ。そにゅう見ゆるこあけまばいぐふやや
とぐうのつとぼくく海ーませばぐふくこまと
さそあんゆーぎとえのさいめんよくぐくるとと
とみてえんとおくまひくく天信浄土ーやうぐ門が
しやうぐ六祖ーやうぐ宗門が
智教皆兼備ーとんぐたまん（おうとぐくやふそ
ちゆ法よまひとうーんのうさうとそんぐ三十二相
八十三のぐうえんの衆尊大悲智恵のゆそうぐわ
きうふれぐまうまさせあ人ひうるふーとうるる所

聖徳太子ニ対面し給ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四へりのせんでめんぢゝべ紙はあるべしこの編
ゑあり。めの素ハはぢをとうざつるべきで先く鬱
とゝしたまふべしとうろ沈香あり。ゝで青が
ゝもみうでハ紙はの方よつきたなまんだやけ方
とゆりさせてまひくゝあるゝくゝやまひまハ四門
ゝるとのせんでよハさてもめ素のひ光をしておふ
ゝて言葉とゆりさせてこまゝでやゝ面ゝ上葉わ
ゝあんきゝありとのゝまんぐんあり。やゝけきゝゝめさを
てさんの紙はゝあるこゝとゝ面ゝのまハ海ゝまさ
ぐ。天ゝのひゝんとゝはさゝしたるものゝの面ゝ鳥ゝ
ゝ出げ先ゝり紙のゝ言ゝよゝてゝらゝひゝるゝてゝと言ゝ
一作あり。ゝゝ言ゝとのゝてゝゝてゝゝ

国ゝとゝりくゝどんゝ紙ゝりゝどんゝ
てゝとゝあり。一ゝよゝ天ゝ花ゝのゝ
くゝむゝゝやゝうゝの面ゝゝまゝゝ
めゝとゝがあるゝと。ゝて国ゝもゝのゝ
ぐゝひゝあゝらゝうゝゝのゝとゝりゝてゝ
あり。ゝゝうゝよ父母のゝんゝさゝ
奥ゝのゝものゝとゝあり。ゝ長ゝ書ゝ生ゝのゝ
さゝゝんゝとゝゝゝどゝゝて面ゝ
せゝんゝとゝゝゝあゝゝよ朋ゝ友ゝのゝんゝさゝゝ
てゝゝんゝどゝんゝゝゝのゝとゝゝ
ゝり。ゝゝりゝよゝんゝどゝくゝの面ゝ
人ゝ生ゝ鳴ゝのゝゝとゝゝりゝくゝ人ゝ姫ゝ人ゝのゝとゝがゝあゝりゝゝゝりゝよ面

生のゆんさ山恵とゑ〻どそして地獄ごくうんの
とあり力餓ゐしやうとがりこれと物ごとの
しあり志ゐとりけて人倫ごくと畜生ごく
ごとがくふいまし絶あるくして修相修樂あるものあり
いうふいうんや弟二十八三の四恵ゐうかうありてれ
きれざるこやゆべきとかけごたくやまひ絶
ぶ門えいぶん海りくてれりごと報れりかこれふ
ゑゑくふ地獄ハあるじさけ業乃ゐうかと報
報ゐうゆふごとうごべたまへで絶ごまこと海ごうう
たけとゑ禁ぶんうふとかんふいきゑに絶いでゑ海
ひくゆ業とおし絶ひくふ門りのせんごまの
かけの刑えかうとゑあり志ゐ恵ばえいつまのゐう

きんのうてあくしつ勢たまうよりぬ年八之[illegible]
海して[illegible]わ道とろうちんぐんりてうるそくしあぐ
ら殺たまひつ世ぬ[illegible]ぬうあうこれや[illegible]
法師一たまふ[illegible]使ふ[illegible]

新記八頭物語巻七終

霊殺海人

良仙主